組織の若返りと再構築を

藤枝支部　支部長代行　石垣　善康

関東支部の会報は、毎回楽しく読ませて頂いております。

藤枝支部は、毎年一回の総会と、適宜ゴルフ会を開催してまいりました。又、以前から藤枝地区の静商生は多く、地元の特産品であるお茶関連の経営者をはじめとした実業界、公務員、政治行政界で活躍いたしております。

しかし、昨年、支部長の山村県議会議員が急逝して以来、支部活動を自粛してまいりましたが、本年5月下旬に、総会、懇親会を開催することになりました。

今までは、連絡費の節約で、レギュラーメンバーを柱に、各年度の幹事に連絡を任せていましたが、出席者もある程度限られていましたので、今回は久しぶりに、支部管内の卒業生全員（1，500名）に案内状を郵送し多くの卒業生に出席して頂き、組織の若返りと再構築を図りたいと思います。

記念の第二十号の発行おめでとう

関東支部長　海野　昭

平成三年七月六日に創立された「静商同窓会関東支部」の「会報」は、翌年の五月二十八日に創刊され、爾来、毎年五月二十八日付にて継続して発行、今年、実に第二十号を数えることとなりました。

この間、平井幸雄現広報部会長並びに歴代部会長及び部会員の皆様の並々ならぬご尽力により、会員はもとより、ご家族にも親しんで戴ける、読みやすい紙面をモットーに取り組んでまいりました。

そして何よりも会員の皆様からの紙面を彩る多方面にわたる熱心な投稿を頂いたお蔭で、この偉業が達成されたものと、心から感謝の気持ちを表すとともに、これからも引き続いての力強い発行を祈念しております。おめでとうございます。

広報を担当して十年

平井　幸雄（S36年卒）

まさに21世紀のはじまる2000年（平成12年）に、3代目の広報部長をお引き受けした。創刊号～6号を担当された初代の広報部長、故・富田　修一さん（S29年卒）と7号～9号を担当された2代目故・中村さん（S33年卒）に説得された。両先輩は静商在学時代新聞部で活動された、いわば広報のプロフェッショナルです。ど素人の私には荷の重い役割でした。頼りになる小林吉照さん（S41年卒）という、印刷業務のプロフェッショナルの助っ人とコンビでお引き受けした。

そして、平成13（2001年）年5月28日に、記念の第10号を発行した。あれから十年、この間に高塚さん（S42年卒）、相川さん（S48年卒）、斉藤まり子さん（S48年卒）が広報部会に加わり、紙面もカラー化され、より充実した、カラフルな会報になりました。

毎号、はじめは記事が無いと悩むのですが、皆さんのご協力の賜物で発行直前になると記事が多く集まります。逆に、寄稿された原稿を限られた紙面にどう納めるかで苦労します。嬉しい悩みです。失敗も多くありました。締め切りぎりぎりまで試行錯誤し、やっと出来上がると抜けや重複、誤字、誤植で、関係者に失礼することたびたびでした。

特に心がけたことは、①読みやすく、親しみやすくするためにビジュアル化に努めました。②できるだけ多くの方に紙面参加いただくために、「特集」欄をもうけ、それに関連する座談会、アンケート、インタビュー、作品掲載などをして、多くの方に登場いただきました。

しかし、若い世代（昭和50年代以降、平成年代の卒業）の同窓生の紙面への登場が少ない。もっともっと若い世代の活躍ぶりを発掘していきたい。若い世代の投稿を切望します。

一方、活字離れをするなかで、紙ベースの会報のあり方を見直さなければならないと思います。新しいメディア（インターネット利用のホームページや、携帯メール）の活用、記事のデジタル化をし、タイムリーな情報提供を図っていきたいと思います。

これまで何とか勤めてこられたのは、何よりも記事を寄稿していただいた会員、読んでいただき激励やアドバイスいただいた皆様のおかげです。そして、同じ広報部会のメンバーの協力のおかげと感謝します。

以下メンバーを紹介します。

小林　吉照（S41年卒）
総会・懇親会の写真記録と最後の印刷原稿とりまとめを担当です。小林さんの撮影してくれたすばらしい写真が紙面を飾ります。

高塚　年明（S42年卒）
現在、故郷・藤枝へ戻っていますが、ふるさと特派員として活動してもらっています。

相川　正美（S48年卒）
斉藤まり子（S48年卒）
お二人で共同して、同好会、応援部会、同期会などのニュース取材、特に若い世代の情報収集を担当。

毎年数回編集会議を開き、電話、メールで何度もやり取りして、協力体制を密にしています。

2001年（平成13年）5月28日発行の
会報第１０号の表紙

私が広報部会を担当してはじめて編集・発行した会報です。前年（2000年７月）開催された総会・懇親会の模様の写真を大きく前面に掲載。イラストや写真を多用しビジュアル化を試みました。（平井）